



# 裸貸しの野性的再編

## スケルトンインフィルの今昔

近世の大家では、「商人であふれかぶっていたこの空襲のやぶ草やぶ草に咲いたこと」とインフィルが盛んな時代であったことなどを背景に、「裸貸し」という概念が存在し、作ることで住まうことが象徴した能動的な暮らしがなされていた。

しかし、裸貸しを現代風として取り入れたNEXT21では住民のライフスタイルに合った空間を設計者が提供する受動的な暮らしがなされたり、作ることを住まうことの重要性が失われている。そして、今にも見られるような民間の民間も相互に人間が本来持っていた身体性や野性的感覚は薄れつつある。

## 野性的な住まい

住民が自らの身体とモノを通じて空間から場所や他者との距離感を知ることによって、人間性の前に居る野性的な身体性を刺激する住まいのあり方を提案する。

野性的な暮らしとは

- 自らの身体とモノを通じて発見的に空間を体感づけること
- 自らの行動によって他者との距離感やなわばりを規定すること

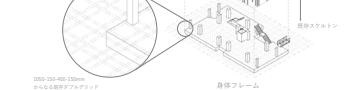


森に見る身体的・野性的な暮らし

## 設計者の操作

森における樹木の配置はランダムのように見えて実はある程度規則性がある。ここでは真似しながら、設計者はNEXT21に内蔵しているデジタルグリッドという設計によって身体を振り回しとなる柱・梁・窓を定期的かつ、ある程度ランダムに配置していくことで裸貸しの文脈を未来志向で再編する。

計画の意図が読めない空間と住民の主体的な解釈のあいだに野性的な生活が育まれるのである。



2020.09.04-10.05  
2021年建築設計コンテスト  
身体フレーム

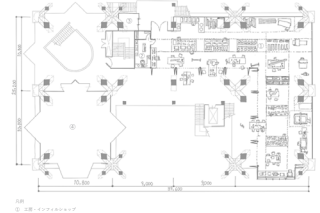
## 住民の操作

2階には住民が一般市民が自由に使うことのできる広場とインフィルのゲートや実用を兼ねて設置することのできるインフィルショップを計画する。住民は広場である程度フューチャライズされたゾーンなどを回って家具や建材といったインフィルを選び、柱・梁・窓かなる身体フレームに付加していくことで住まう環境を整えていく。

計画された無機質な身体フレームはインフィルを挿入することによって自由に使い方がなされたり、なわばり表示物となり、生きた住まいへと移ろっていくのである。



住民が製作するインフィルの例



2階平面図 S=1,200

# 最優秀賞

N00159

# 裸貸しの野性的再編

石井 涼也(広島工業大学)